



2023年 1月人権一口講座



感染症による差別

今年度に入ってコロナ禍にあっても、強い行動制限はしないという政府の方針から、ふれあい文化センターでもコロナの影響での休館がないことは喜ばしい限りです。

職員も感染防止策を講じつつ視察研修をする機会が増えてきました。その中に菊池恵楓園の歴史資料館が今年の5月に増改築を経て新館・本館として整備されたので研修に行ってきました。

研修時間が一時間限りの研修でしたので、資料館の展示物すべてをじっくり見るのは出来ませんでした。見学しやすい配置になっていました。

特に入ってすぐにあるガイダンス映像はハンセン病の歴史やそこに置かれた人々の苦悩が理解しやすく、とても有意なものでした。

ハンセン病(原因菌:らい菌)は遺伝病でも不治の病でもなく、また感染力も微弱であるにも関わらず「無らい県運動」などが展開され平成8年の「らい予防法」の廃止まで隔離政策が続き入所者たちを苦しめてきました。

入所者の言葉として「療養所とは名ばかりで収容所であった。」このフレーズに、ひどい状況であったことがうかがえました。人権問題は差別する側の問題であるのに、差別される側をひとまとめにして社会から隔離する政策には恐ろしさを感じます。

ハンセン病に改名された「らい病」は奈良時代の文献にも載っているくらい古くからある病ということや、今でも発生している諸外国があつて世界から無くなった病気ではないということも学習できました。

新型コロナウイルスにおいても当初は感染者や医療従事者に対して差別的な行動があり、未知のウイルスに対して人間が起こす同調圧力はハンセン病による差別にかよっていると指摘する方もいらっしゃいます。

正しい知識を習得することが、「正しい判断ができるようになる。差別解消に繋がる」そのようなことを思うと、たくさんの方に新しくなった資料館を是非とも見に行ってもらいたいと強く感じた、充実した研修会となりました。

短いメッセージ

つらい事があつたら何でも話してみても話してもらった私もうれしいよ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー 龍田小学校5年 内村早喜さんの作品より